

## 平成16年度第2回手賀沼水循環回復行動推進会議 議事録（概要）

○日 時：平成17年3月9日（水）13時～17時

### I 現地視察（13時～15時）

○視察場所

- ①日立総合経営研修所（我孫子市高野山485番地）
- ②我孫子市船戸の森

○視察参加者：32名（別紙1のとおり）

### II 会議（15時～17時）

○場 所：手賀沼親水広場（我孫子市高野山）

○出席者：別紙2のとおり

○事務局あいさつ（千代副課長）

本日は、御多忙の中、皆様方には、手賀沼水循環回復行動推進会議に御出席いただき誠にありがとうございます。

本来ですと、水質保全課長からごあいさつ申し上げるところですが、新聞等をにぎわしております、JFE問題がございまして、出席できませんことをお詫び申しあげます。

さて、手賀沼の水質の状況は、大幅に改善してきております。

しかしながら、平成15年度は冬場に植物プランクトンの珪藻類が大量発生したことにより、若干水質が悪化し、また、平成16年度は猛暑の影響や臭気物質問題もあり導水ができない状況となり、現状のまま推移すると、平成15年度並の水質を維持することが難しい状況にあります。

この行動推進会議も、今回で4回を数え、今までも検討いただいてきておりますが、なかなか進めることが難しい主な取組課題の今後の推進方策についてご検討いただきたいと考えております。

また、前回の推進会議において宿題となっておりました緑地面積等の取組目標の把握方法、周辺の市町村での自然環境調査の状況について御報告し、今後どのように扱っていくかなど、検討いただきたいと考えております。

住民の皆様と連携・協働して行った湧水調査などの結果について御報告するとともに、現在、手賀沼の関係で3つの組織があり、来年度から、この「推進会議」を手賀沼水質浄化対策協議会に統合し、「専門委員会」として位置付け、運営していくことについて御報告させていただきたいと考えております。

皆様の忌憚のないご意見をいただくことをお願いし、開会のあいさつとさせていただきます。

○会長あいさつ（佐倉保夫千葉大学理学部教授）

年度末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、会議に先立ちまして、良い環境のところを視察させていただきありがとうございます。

今日は主として水循環回復の取組の課題についてご検討いただくこととしています。なかなか難しい問題ですが、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

○議 事（佐倉会長が議長となり進行）

## 1 手賀沼水循環回復行動計画に係る取組課題の検討について

事務局（千代副課長）から、資料1により、事前に庁内及び市町村にアンケート調査を実施し取りまとめた、①主な取組課題の現状及び今後の推進策、また、前回の推進会議において宿題となっていた②雨水浸透マスの実績値の把握方法、合併処理浄化槽の処理人口の考え方、緑地面積の把握方法、③目標の達成状況を見る上での市町村における自然環境調査の実施状況について説明。

（質疑等）

### ・塩野谷委員（ふれあい手賀沼の会）

生態系保全の取組で農業用排水路の三面張りの問題。以前から小排水路については、二面張りで吸い出し防止策\*がとられてきている。

もっと浸透性にすべきことを指導するべきである。

\*水路側面の土砂の崩れを防止するための対策：防水シートの敷設など

### ・佐倉会長

自然護岸とした場合、費用の問題など難しい面もある。

### ・小林委員（環境イーハトープの会）

この取組課題では水循環回復する上で重要な、生き物の問題、水量回復が取り上げられている。

#### ①雨水貯留・浸透の取組で、

浸透マスを設置した場合と自然の緑地での浸透の違いなどを比較して調べて欲しい。

生活系の排水を下水道に接続すれば良い訳ではないのと同じように、雨水浸透マスの設置を開発の免罪符として欲しくない。

緑地の保全は難しいが重要で、現状より減らさない努力が必要である。

#### ②生態系保全の取組で、

事業を具体的に紹介して欲しい。協働調査を実施する中で、住民の方が河川を見ており、身近な河川をどのようにして欲しいか意見を言えるような状況にして欲しい。

### ・佐倉会長

日立の総合経営研修所で、雨と河川水量、地下水位の観測を開始した。開発

のされていないところのあり方がどうか。開発が行われ変化したところとの比較、浸透マスを設置したらどう変化するか。なかなか出てこない。

開発したところは、不透水となり、浸透しなくなる。他のもので同レベルの浸透を求めても戻しきれないというのが現状であると思う。

- ・河川環境課

植生帯の整備については、手賀沼総合浄化計画に位置付けられ、沼の左岸において実施することとし、親水広場水の館からビオトープと手賀大橋から手賀沼公園の 1.9km を整備予定区間としている。整備に当たっては、住民の方にも参加いただいた検討会を設置し、具体的に進めていきたいと考えている。

- ・小林委員

「生態系の保全」は名前は大きいですが、なおざりにされがちである。生き物を豊富にして欲しい。

- ・瀧委員（千葉工業大学教授）

行きつくところは、「多自然型川づくり」なのではないか。

治水と環境の両立は難しい。環境に配慮した工法とは何なのか明確でないのが現状である。

何か一つ作ったらどうなるかその成果を確認すべきである。

例えば、浸透マスを設置したらどうなるか、生態系では、トンボが何匹増えたとか、成果の確認をどう行うか。

税制上の優遇措置をとったら、具体的な効果の確認をどう行うか。

高度な方法でなくても良いので、確認していく必要がある。

- ・佐倉会長

先ほど視察した我孫子の船戸の森では、5 ha の緑地を確保するにも非常に苦労が大きいということである。

開発を認めるのは簡単であるが、開発にブレーキをかけることも簡単なはずである。定量的な評価を模索していく必要がある。

- ・瀧委員

手賀沼では、治水、利水、保全が一つの空間にあるべきである。

## 2 平成16年度手賀沼流域協働調査結果について

事務局（平川主査）から、パワーポイントにより16年度調査結果について説明。

- ・佐倉会長

湧水の調査はともかく河川の調査には雨が影響すると思うが、その辺りは考慮しているのか。

- ・事務局（千代副課長）

河川は流域ごとに一齐に調査することを前提に計画しており、雨天時にもやむを得ず強行しているところがある。今後は柔軟に対応していきたい。

- ・佐倉会長

河川の調査については、長く調査を続けていくと傾向が出てくると思う。

ただし、手賀沼の流入河川は山間部にあるような清流ではないので、そういった生物は見られないであろう。

- ・山木（沼南・手賀沼ボランティア会）

湧水調査の実施しているところで、昨年台風の影響を避けるため、大木を切り、環境が大きく変わったところが1か所ある。そういったところも含め、調査の回数が年2回で良いか疑問がある。

- ・佐倉会長

調査の回数を増やした方が良いかと聞かればその方が良いに越したことはないが、この調査は研究的なものでなく、モニタリングというか長期的な方向を目指したものである。将来的に変化につながれば、途中の段階も知りたくなる。いずれにしても長く続けていって欲しいと思う。

- ・塩野谷委員

手賀沼は汚くて生物はいないと思っていたが、実際調査に参加するとたくさん生物がいる。貴重な生物が残っているのでそういったものに目を向けて調査を続けて欲しい。

- ・小林委員

湧水の分析結果で、公定法とパックテストを比較するとCODと硝酸性窒素は公定法による結果とパックテストによる結果の差が非常に大きい。今後、この協働調査結果を生かす意味でもその辺りの検討をされて次の調査を行った方がよい。

- ・事務局（千代副課長）

市民の方にとってはパックテストも面倒な方法であるし、水生生物調査も難しい。できるだけ技術の統一化を図るということで、今後勉強会等を開催し、技術を高めていくことも考えている。一つずつ積み重ねながらよりよい調査としていきたい

- ・佐倉会長

いずれにしても貴重なデータである。基準として使えるような残し方をすればまた役に立つこととなる。学識経験者等の意見も聞きながら貴重なデータとしていって欲しい。

### 3 手賀沼水質浄化対策協議会への統合について

事務局（川上主幹）から、資料3に基づき、平成17年度から「手賀沼水循環回復行動推進会議」が手賀沼水質浄化対策協議会（「手賀沼水環境保全協議会」に改称の予定）に統合され、下部組織の「専門委員会」と位置付けられることを説明。

### 4 その他

#### (1) 印旛沼流域水循環健全化会議での検討状況

事務局（千代副課長）から、資料4に基づき印旛沼流域水循環健全化会議での取組の状況について説明。

#### (2) 国における湖沼環境保全制度の在り方の検討状況

事務局（千代副課長）から、資料5に基づき中央環境審議会の答申の内容、今国会に湖沼法の改正案を提出中であることを説明。

#### (3) その他

前回（平成16年7月23日開催）の推進会議において、山木委員から発言のあった、大津川の河川改修区間で改修工事実施前に見られた植物の生育状況（手賀沼にはなくなったとされているヤナギモが見られたこと）について、パネルを用いた報告があった。

○閉会